

# 伝統のマラソン大会

## 小山小学校

大会は、竜ヶ池の南側にある滝見橋近くの街灯をスタートとし、男女別、一年生は一周、二・三年生は二周、四年生以上は三周を走り、弁天橋をゴールとします。池のまわりを取り囲む応援の保護者、足を止めて微笑ましく眺める観光客、秋の臥竜公園に更に活気を与えます。

ゴール付近は、応援場所でもありません。お互いに走ることで大変さや辛さを知っていますから、男女が自然に応援し合う姿が生まれます。ペースが落ちて



のコース↓池の周囲コース、というようにここ数年で変わってきました。

いる子も声援を受けてスピードが上がり、最も盛り上がる場所になります。

春から朝の活動の時間を使って校庭でマラソンをしますが、秋近くになってくると体育の時間に臥竜公園のコースも走ります。昨年からは、保護者や地域の方からボランティアを募集し、園内を走る際の見守りに参加していただくようになりました。

長い距離を走ることについての受け止めは、賛否いろいろあり、年二回→一回、山道あり

# 伝え合い 色鮮やかに花咲く音楽会

## 旭ヶ丘小学校

本校の学校目標は「精一杯自分の花を咲かせよう」です。十月に行われた校内音楽会ではその具現の姿が、花のように色鮮やかに表れていたように感じました。

練習からどの学年も自分たちの学級、学年の雰囲気や伝えたい思いを歌や合奏にのせてどのように表現できるか考えながら取り組めました。練習場所も教室や音楽室だけでなく、廊下、玄関ホール、多目的室、校舎外と様々なところで響きを意識して練習を行いました。また、他の学年の声や演奏を聴き



た。ともに創り上げ花咲く音楽会になりました。(中井 光一)

# 各校の教育活動特集

## 音楽会「チャレンジステージ」の紹介

### 豊丘小学校

本校の音楽会は十月二十六日(金)に行われました。今年度は、「心ひとつに！七十五人のメロディーを♪」というテーマで練習に取り組んできました。本校では、学年ごとの発表の他に「チャレンジステージ」があります。平成二十七年に、「音楽のよさ、楽しさを表現できるようなステージ」を目指してはじまりました。

夏休み明けから、校内、地域に向けて募集を呼びかけ、四組のエントリーがありました。一組目は、児童とそのおいちゃ



今年で四回目の「チャレンジステージ」のある音楽会。少人数ならではのなんとも言えない楽しさがありました。(塚田久美子)

## 初めての交流給食

### 常盤中学校

常盤中学校では、十月二十四日に初めて『交流給食』を行いました。この企画は、給食委員長が地域の方と交流したいと願い、計画を立て実現したものです。

初めての経験でしたので、五月に職員室で給食を食べる先生方を各教室に招待して練習をしました。先生方からは、「一緒に食べるのができて楽しかった。」と感想をいただき、本番に向けて自信をもつことができました。

夏休み中にチラシを作り、地



域に回覧し、参加者を募集しました。給食センターにもこの趣旨をご理解いただき、綿密に打ち合わせをしました。給食委員長は、地域の方が使うランチョンマットや箸置き、名札を手作りして準備しました。

当日は、各教室に地域の方が一〜二名入り計十七名に参加していただきました。学校やクラス紹介をし、会話を楽しみながら昼食をとりました。地域の方からは、「とても良い企画です。また、来年も呼んでください。」と嬉しい感想をいただきました。

(山田 千秋)



高甫の地区は、古くから柿の里として知られており、特に「八町柿」は地域の特産物となっています。

高甫小にも「タッキー」「ナッキー」と名のついた二本の柿の木が植えられています。これは、長崎市の被爆地で生き残った柿の木から育てた「被爆二世の柿」で、平和学習の一環として平成十三年に植樹されました。その十年後、高甫地区の六カ所にも同じ柿の苗木が植えられました。



平成十三年の秋には地域づくり推進委員会との連携で、「柿の皮むき体験会」が小学校の体育館で行われました。この行事は、地域特産の柿を全校児童で皮むきをして干し柿にする活動ですが、それと同時に学校や地域に植えられた「被爆二世柿」の意味を知り、平和

## 本校の宝 73

### 「学校林」

昭和三十一年、高井村と山田村が合併して高山村が誕生し、昭和三十三年五月には高井・山田両中学校が形式統合し、高山中学校高井部・山田部が発足しました。それからちょうど六十年目を迎えます。

本校には、県道112号線万座道路の途中に学校林があります。志賀高原から続くユネスコエコパークの真ん中に位置しています。

この学校林は、昭和四十三年に全校でカラ松二千四百本を植樹し創りあげました。翌年にはその努力が認められ、学校林コンクールで県知事賞を受賞しています。



が、今年度は秋に二年生の代表者が、

昭和三十一年、高井村と山田村が合併して高山村が誕生し、昭和三十三年五月には高井・山田両中学校が形式統合し、高山中学校高井部・山田部が発足しました。それからちょうど六十年目を迎えます。

本校には、県道112号線万座道路の途中に学校林があります。志賀高原から続くユネスコエコパークの真ん中に位置しています。

この学校林は、昭和四十三年に全校でカラ松二千四百本を植樹し創りあげました。翌年にはその努力が認められ、学校林コンクールで県知事賞を受賞しています。

一時期活動が停滞した時もありましたが、椎茸やクリタケ、ナメコの駒打ちを行い、ほだ木を学校林に持って行って本伐を行う活動を行っています。

派な立派な小屋も建て、PTAの方々のご協力を得て、鹿やイノシシからキノコを守るトタン板の柵もつくっていただきました。学校から車で十分〜十五分程度の距離にあるため、なかなか簡単には訪れることはできません。

この行事は、地域づくり推進委員会が中心になって進めてくださり、シニアクラブ、保健補導員、PTAと多くの方の力を借りて成り立っています。子どもたちは、地域の皆様に支えられ、教科書だけでは学ぶことのできない大切な学びを育んでいます。(長谷部直子)



本校では、総合的な学習の時間に、「ふるさと高山村」を三年間のテーマとして掲げ、学校林での活動を継続的に行ったり、中学生議会の中でよりよい村づくりのための提言を行ったりしてきています。

昨年三月には、これまでの取組が評価され、ユネスコスクールに認定されました。環境、貧困、人権、平和開発といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動(ESD)として認められたものです。今後も高山中学校ならではの、この活動を大切にしたいと願っています。(鬼石 喜明)